

習い事を選び方

「小学校に入学したから、何かを習わせたいと思ってるけれど、どんな習い事をさせようと思っている？」小学生の子をもつ親としては、悩みどころですね。では、どのように選べばよいか考えてみましょう。

よくあるのは、「藤井聡太さんのように、将棋を習わせようかな。」と、今流行りのことをさせること、「自分がピアノを習っていたから、きっと娘も上手いと思うんだよね。」と、親の得意なことをさせること、「自分は甲子園を目指して野球をしていたけど、その夢は達成できなかったから、息子には甲子園に出場させてやりたいから、野球を習わせたい。」と、親の夢を託すこと等でしょうか。親の妄想を押し付けることはよくないですね。

習い事をするのは親ではなく子どもですから、まず、子どものことをよく観察して、何に興味があるか、何が得意なのかを見極めることです。でも、なかなか分からないものです。そんな時には、いろいろなことを経験させてあげることです。その中で、何かが見つかってくるかもしれません。

何かを経験させてあげるときに、よくやるのは、3 か月はやらないと合っているか合っていないか分からないから、それまでは続けなさいということが多いですが、これは逆効果です。やめ癖がつくから、すぐにあきらめるようになってしまうからと思いがちですが、続けたいのであれば続けますし、やめたいと思ったら、無理に続けさせても苦痛な体験が残るだけでよい経験にはならないことが多いです。

様々な経験をしていくと、夢中になるようなことに出会う時が来ます。夢中になる体験を積み重ねていくと、自己肯定感が高まります。夢中になる、つまり集中する力がつくので、頭がよくなります。

子どもが夢中になれる習い事が見つければ、子どもががんばり、結果がついてくる、親もそのことをほめるようになり、結果、親子関係がよくなります。

このように、子どもが自分でやりたいことを見つけ、それに夢中になり、さらにもっとできるようになりたいと願い、それを達成していく、このことがまさに、自己実現力と言われる力です。これから、様々な仕事がAIに代わる時代になってきます。この時代に必要になってくる力が自己実現力です。言われたことをやっているだけでは、AIに代わられてしまいます。自分でやりたいことを見つけ、自分でどんどんやっていくことができる大人になれるよう、習い事でもこのような経験をさせてやりたいですね。